

碩 心

社団法人 日本詩吟学院 岳風会 認可
 神奈川 碩 心 会 発行

14年12月現在	会員数	14年12月 (356号)
葉山地区	168名	発行者 加藤 岳 洵
逗子・大船地区	137名	編集者 磯 村 岳 朋
(合 計)	305名)	鎌倉市浄明寺1-6-24
		TEL・FAX 0467-25-1850

行事予定

- 碩心会初吟会
 日時・平成15年1月13日(祝) 受付9時半
 会場・レイ・ウエル鎌倉
 担当支部 逗子A・悠吟・幸和
- 準師範講習・正師範審査
 日時・2月15日(土)
 午前 準師範講習 午後 正師範審査
 会場・平塚市民センター
- 優秀吟者吟道大会
 日時・3月9日(日) 9時半受付
 会場・明治神宮会館大ホール
- 碩心会春期審査会
 日時・3月23日(日)
 会場・逗子図書館ホール

会計よりお知らせ

会費徴集に関して、70周年大会積立金が、増額に成りました(年額1000円→1400円)のでお知らせ致します。(大会積立金以外は変更有りません)

14年度後期分より改訂し実施致しますので何卒ご了承の上ご協力お願い致します。65周年大会の決算額を勘案し従来の積立金では、不足を生ずることが見込まれる事から11月18日の常任理事会にて決定されました。

前期分会費 (4月~9月)	
碩心会費	1,200円
県本部費	1,500円
(但し18才未満 身障者)	300円)
総本部費	2,000円
第二地区費	200円
70周年積立金	700円
前期合計	5,600円
後期分会費 (10月~3月)	
碩心会費	1,200円
県本部費	1,500円
(但し18才未満 身障者)	300円)
70周年積立金	700円
後期合計	3,400円

第17回鎌倉市詩吟詩舞連盟大会にて

逗子B 海 津 祥 岳

紅葉の始まる季節、肌寒さを感じる10月20日、まずまずの天気恵まれた、鎌倉市の文化祭に、進行を仰せつかり、朝早くから会場に着きました。進行の長、松井正岳先生の指示に従い、初めて進行をさせて頂きました。間違ったら大変と、男性にマイクをお願いして、私は、電光掲示板の操作を担当致しました。皆さんの吟を聞きながら、舞台の上で、大忙しでしたが、大変良い勉強をさせて頂きました。色々な団体が、集まっている為、名前も、顔も知らない人の中で、詩吟を愛する者どうし、気持ちがあさく解り合い、一緒に仕事が出来て、嬉しく思いました。

思えば、6年前に、心筋梗塞の病気をした時には、これで詩吟も出来なくなってしまうと思ひ、つらい淋しい気持ちで、諦めました。が、お陰様で、日々快方に向かい、今では、殆ど良く成って、以前のまま、教室にて、村田岳瀨先生の御指導の下、お仲間の方々と、楽しく、勉強させて頂いております。これからも詩吟を愛し、楽しく過ごしたいと思います。

逗子市文化祭詩吟詩舞発表大会

真澄 星 野 輝 岳

快晴に恵まれた11月3日標記大会が、図書館ホールに於て開催されました。終礼、開会の辞、続いて富士山の合吟が、会場に響きました。プログラム通り熱吟が続きます。

満員の会場は、暖房が効かず朝のうちこそ寒かったものの、昼過ぎには、熱気で満ちあふれました。文化の日らしく、書、華道吟も見事でした。昼食休憩のあと、大会委員長千葉岳関先生の御挨拶が有り。少女達の可愛らしい、白虎隊が、胸を打ちます。出演者の真摯な吟が続き、長年に亘る努力の後を感じました。詩吟の世界を舞に託した詩舞は、日頃の精進ぶりが窺われます。

役員吟詠、詩舞は、さすがに素晴らしく、ますますの研鑽を、心に銘ずるものがありました。4時過ぎ閉会となりました。

楽しく、充実した1日でしたが、転んで怪我をした方があり、今後の対応を考えさせられました。

和氣藹々の中に、一堂に会することは、誠に、意義ある事だと感じました。

第36回葉山文化祭詩吟詩舞発表会を終えて

堀内B 白 井 照 岳

十一月九日爽かな秋空の下、十時開演午後二時迄、六十番のプログラムの内欠席は一番のみで、和やかな内に進行し、石川響岳先生の尺八伴奏により、盛会の内に無事幕を閉じました。陰で支えた役員の方々の努力の賜と深く感謝しております。

始めて私が参加させて頂きましたのは昭和四十五年頃でした。福祉会館も昔の建物で二階の大広間に座布団を敷き、舞台は床の間位の高さで、客席と一体感のある会場でした。結婚祝詩を舞った事、始めて九月十日を吟じ、ちつとも声が出ず恥しい思いを致しましたが、根岸先生（元会長）が「今にきつと舞の様に立派な吟が出来るようになりますよ」と励まして下さった事が昨日の様に思い出します。

私の次女も京愛先生のお世話になり江南の春 武田武士等舞わせて頂きましたが、今ももう昔の事、参十余年一夢の中の感一入です。今後も懐かしいお友達と一緒に楽しく続けて行きたいと思っております。

皆伝会吟の集い

松和 朝比奈泰岳

秋晴れの好天に恵まれた10月14日(月)の祭日、表記集いが「レイ・ウエル・鎌倉」3階ホールに於いて、新皆伝者6名を含む76名の会員の出席を得て定刻10時に開催された。沼田岳義先生の開会のことばに始まり、「碩心会の詩」が宇都宮徳岳先生の先導で声高らかに合吟された。続いて第一部会員吟詠がスタートし次々に会員の熱吟が披露され午前の部が終了した。

午後から、会長加藤岳洵先生の「吟技のみでなく礼節を知り、吟道精神に則って研鑽に励まれますよう」とのご挨拶、総務部長松井正岳先生の伝達事項があり、続いて第二部会員の華麗な詩舞、第三部会員吟詠、第四部役員吟詠、第五部招待吟詠、第六部役員吟詠と披露された。特に来賓の諸先生方、役員の諸先生方の範吟が、会場を盛り上げ大変素晴らしく感動し、改めて日頃の吟道研鑽が大切だと痛感した。

因みにご来賓は、県総務理事加藤岳心、横須賀第二地区地区長鈴木岳潮、同副地区長荒

川岳深、同副地区長白井岳琇、県研修部副部長平木岳栄の諸先生方です。

午後3時、杉山岳雪先生の閉会の挨拶の後、同ホールにて懇親会が行われ、カラオケの余興も加わり和やか雰囲気の中に吟の集いは無事お開きとなった。最後に役員並びに実行委員の皆々様のご努力に深く感謝しお礼を申し上げます。



葉山ふれあい講座にて

去る10月23日(水)、午後1時半より2時間間わたり、加藤岳洵会長、矢嶋悦岳、松井正岳両副会長、上村岳章、立澤岳晴、石川響岳、全6名により詩吟講座を、葉山中学校に於て、実施致しました。葉山中学校、広瀬校長の依頼に依るものです。

内容は和歌3題、絶句4題、左記の通り。
和歌―東の野・子等を思ふ歌の反歌・三夕の歌「みわたせば」

絶句―春暁・絶句・黄鶴楼にて猛浩然の広陵に之くを送る・垓下の歌 以上。

集まった学生、男子9名、女子3名、国語の先生1名。

加藤岳洵先生が、講話、同行の先生方が、朗詠を担当、石川先生は、尺八で伴奏。

学生の反応が、薄かったのが残念。

国語の先生曰く「中国の漢詩を吟ずるとは思いませんでした。」学生も、先生も、「詩吟を初めて聞きました。」との応えに、まだまだ世間には浸透していない事を、思い知らされました。

ふれあい講座のお礼状

ふれあい講座の開催について葉山中学校校長広瀬泰男様から左記のようにお礼のお手紙をいただきました。

「秋も大分深まり校庭のケヤキが色づき、コスモスが風に揺れています。

爽やかな秋晴れが続き、生徒はとても気持ちよく学校生活を送っています。学校では、今学期の大きな行事はすべて終わり、落ち着いた雰囲気の中で学習を進めているところです。さて、去る10月23日の文化週間の一環として実施いたしました「ふれあい講座」の講師として貴重な時間をお割きいただき、本校生徒の体験学習とふれあい活動に際し、温かなご指導をいただき、誠にありがとうございます。厚くお礼申し上げます。生徒は楽しく貴重な体験をさせていただいたと喜んでおります。また、担当教諭も成就感をもって感謝の気持ちで一杯です。

学校としても教育改革に向け実践的な研究を進めているところですが、これからも地域の方々定期的に指導に入っていただいたり、生徒が地域に出掛けて行ってふれあいを持た

せていただいたりと、いろいろな機会が多くなってくると思います。今後ともお世話になることが出てくると思いますが、ご協力を賜ることができれば幸いに存じます。温かいお心を賜りまして誠にありがとうございます。深く感謝申し上げますとともに略儀ながらお礼申し上げます。

また生徒さんからも「今日は、はじめて本格的な和歌や漢詩を聞きました。大きく迫力のある声でもとびつくりしました。漢詩の内容は難かしく理解しがたかったけれど、これからの国語の授業で役に立ちそうです。ありがとうございます。」

このほか12名の生徒さんからも同様お礼の手紙をいただきました。

俳句

岩崎 岳恵

笹鳴や背伸びで探す遠き海

落葉掃く日々の雑念消ゆるまで

枯野行く頼りなき身に小鈴鳴る

俳句

滝の坂 佐久間 岳 爽

さまざまの橋みて睡る都鳥

産土は女神に在す冬ざくら

沙羅双樹枯れて縁切寺しづか

入 会 (10月18日)

400 林田ヒサエ 横須賀市浦賀町五―四二―二〇八

(幸和) ☎〇四六八―四三一―四八八

紹介者 西川幸岳

入 会 (10月25日)

401 阿部理恵 横須賀市大津町五―一―七四三

(幸和) ☎〇四六八―二七―二六五八

紹介者 西川幸岳

退 会

38 舟渡岳船 (逗子A) 死亡10月8日

退 会 (11月1日)

110 岡本瑞岳 (栄) 199 田中絵風 (栄)

224 水野湖風 (栄) 233 橋本洋風 (栄)

編集後記

ジングルベルが聞こえてきました。今年ももう終わりです。

原稿、投句、有り難うございました。

1月に新年号を出しますので、来年も原稿何卒よろしく願います。新米広報なので、間違いが多くて、皆様に御迷惑をおかけ致しましたことを、謹んでお詫び申し上げます。 広報部一同